

〔学会〕

第854回 千葉医学会例会 第56回 千葉泌尿器科集談会

日時：平成3年12月1日（日）

場所：ほてい家

1. 三歳男児に対する Endopyeloplasty の経験

安原克彦, 阿部功一, 村山直人
遠藤博志 (松戸市立)

三歳男児の腎回転異常と尿管高位付着を伴う右腎盂尿管移行部狭窄に対して内視鏡的腎盂形成術を実施した。初診時、IP 60分で造影されずレノグラムは無機能型であったが、1年間の尿管ステント留置後、機能回復を認めたため、経皮的腎盂形成術を実施した。術後2年の経過観察で良好な結果を得た。小児例では尿流通過障害除去後の腎組織の回復が期待できるので、腎保存手術を原則とするべきことを強調した。

2. 両側睾丸に発生した悪性リンパ腫の1例

中村 剛, 武井一城, 川村健二
日景高志 (東京厚生年金)

52歳、男性。右睾丸腫脹を主訴として来院。右睾丸腫瘍と診断し右高位除睾術施行した。病理学的には Malignant lymphoma, diffuse, mixed type と診断された。その後左睾丸腫脹もみられたため左高位除睾術施行した。病理学的には前回と同様の所見であった。術後検査では転移の所見みられず再発予防として CHOP 療法施行した。術後4カ月を経た現在再発の所見はみられていない。

3. 馬蹄腎に合併した腎盂移行上皮癌の1例

辻 博勝, 桜山由利, 石川堯夫
(国立千葉)

馬蹄腎は、比較的多く見られる先天異常であり、その形態的特徴により、水腎症、尿路感染症、尿路結石等の合併が多いが、悪性腫瘍の合併の報告は稀である。今回われわれは、馬蹄腎に発生した腎盂移行上皮癌の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告した。本

症例は、馬蹄腎に合併した尿路悪性腫瘍としては56例目であり、腎盂癌としては14例目であった。

4. 前立腺癌の MRI 診断

伊野宮秀志, 内藤 仁, 平岡 眞
(沼津市立)

1988年7月～1991年8月に前立腺癌の疑いのある患者85名に対して前立腺の MRI を行ない、組織学的に48名に前立腺癌、24名に前立腺肥大症があった。MRI では48例のうち23例を前立腺癌と診断し、残り25例は前立腺肥大症と診断した。前立腺癌の stage が高くなるほど診断は正確になる傾向があった。

5. エコーを用いた残尿計測

近藤 明, 瀬川 襄
(厚生中央)

エコーにより計測推定した膀胱容量と実際の膀胱容量に関し、比較検討を行なった。両者は密な正の相関を示したが、小容量域で推定値が実測値より大きく出る傾向があった。一方向のみからの測定による推定では誤差が大きくなるため、上下、左右、前後の3方向からの計測が必要と考えられた。膀胱の上下径の把握は恥骨結合のため困難であり、上前一下後径が代用値としてすぐれていた。

7. 経尿道的切除術後の尿道狭窄

瀬川 襄, 近藤 明 (厚生中央)

下部尿路通過障害340例の経尿道的手術術後尿道狭窄を検討した①狭窄の発症は54例 (15.9%)、61カ所であった。狭窄部位は外尿道口 (23.0%)、膀胱頸部 (27.9%) であった。②狭窄発症の時期は平均7.2カ月。12カ月までで88.5%の発症を見る。したがって術後1年は経過観察の必要がある。部位別には外尿道口や前部尿道では3カ月以内の発症が多く、膀胱頸部ではもっと長期にわ